

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

(2号館)

事業者名	グループホーム めくもり	評価実施年月日	平成19年 6月 1日
評価実施構成員氏名	介護支援専門員 水上 恵子 計画作成担当者 1号館 管理者 二俣 洋子 介護職員 中田 久枝 2号館 管理者 三浦 光枝 介護職員 竹内 泰子		
記録者氏名	水上 恵子	記録年月日	平成19年 6月 15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型サービスとしての理念は作っていないが、事業所独自の地域の中で、その人らしく暮らしていく事を支えていく理念を作っている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、理念を具体化して、日常的に職員に働きかけている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族には入居のさいに、理念等を説明している。お手紙や、お知らせなどを通して取り組んでいる。</p>	○	<p>推進会議を通し地域の人々に事業所の理念も理解していただく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>利用者様と職員が外出、散歩の際、隣近所の商店、コンビニにて、買物等により、声を掛け合い挨拶を交わし、日常的な付き合いが出来る様、努めている。</p>	○	<p>GHを気軽に立ち寄り出来る様、近所の方々、町内会にも積極的に働きかけて、日常生活を見てもらい理解して頂く。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の行事や集会、地域活動に参加している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>取り組んでいない。</p>		<p>運営推進会議の中で、民生委員さんとの意見交換で、地域での高齢者との接触は大変難しい。(プライバシーの問題があり、声を掛けにくい状況にある。)</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の改善策はすぐ実行し、改善に取り組んでいる。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今までの運営推進会議でサービスの報告等をし、話し合い、理解していただき、意見もサービス向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	毎月の市役所への空室状況等を報告し、市町村等サービスの向上に取り組んでいる。	○	市の窓口と常に色々な書類や、相談を通して、アドバイスを得ている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在対象者はいない。	○	今後必要に応じ対応したい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待防止等の研修会に参加し常にスタッフ会議で話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用契約書に基づき、入居者及び家族に説明して、理解を得ている。疑問点についても十分な説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談箱・受付箱も設置しておりますが、利用者が意見・不満を訴えた時に対しては、対策を検討し対応を考えている。 推進委員会議の時に利用者の意見も聞き反映させている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>家族の方がいつでも見られる様、TV横に写真を置いている。 定期的に個々の暮らしぶりや健康状態等を2ヶ月に1度、お便りでお知らせしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族が来所時に近況報告し、家族の意見も聞いて、改善が必要と認められた時は、話し合い対応する。 推進委員会議の時に家族の意見も聞き反映させている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1度のミーティングなどでスタッフの意見・提案を聞き、反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員数が十分確保されており、余裕のあるローテーションが生まれ、適切に運営されている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>ほとんどスタッフの移動がなく利用者へのダメージはない。</p>	○	<p>2ユニットでしていますが、スタッフ間の移動はしない。また利用者さんにも、1・2F関係なく声を掛け合い親しみを持つ様になっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	道・市グループホームの研修には必ず受講し、会議で研修報告をするため、職員間での共有体制が出来ている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	隣接しているグループホームとの合同行事や交流する機会を持ち、相互のサービスの向上に努めている。	○	空知ブロックグループホーム協議会に加盟し、数多くの研修会に参加して、色々な面の交流を図っている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員間の親睦会は、全員参加するのは難しい現状であるが、人間関係は良好で、業務上の悩みは総務部長等に相談等を通して、ストレス解消を計っている。	○	気軽に話し合える場を増やしたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員が管理者との話し合いやミーティング等の中で、自分自身の行動を伝達し、意見交流の中で、今後の介護指針に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	日常生活の中で困っている様子など感じた時、本人の居室または誰も居ない所で、話を伺う様にしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族が来所時、いつでも気軽にお話ができる様、「何かありませんか?」とこちらから問いかけ、お話ししやすい雰囲気を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居者の決定にあたっては、家族・及び本人と面接する事と書類(病歴・現在の状況)等を検討し、本人が納得してサービスの対応に努めている。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入所時、馴染みの物を持参していただき、自宅に居る雰囲気作りをし、馴染むまで家族の来所を多く持ち、徐々に馴染んでいただいている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>日常の会話等で昔の話し、わからない事等を一緒に共有できる様、努めている。</p>	○	より心掛けて行う。
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の訪問は多くあり、その度近況等を話し合い、時には、家族を求めた時はTEL等をし、家族の協力を得、問題解決をし支えあっている。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>家族関係の良い人達は良いが、なかなか通じ合えない家族には、電話又は来所時、一緒に中に入り係りをもつ。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人が電話を掛けて欲しいと訴えた時は、家族・親戚・友達に電話をし、本人の意思を伝え来所していただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立がない様、スタッフが間に入り、利用者同士が交流を持てる場を作ったり声掛けをしたりして、仲の良い関係をつくれる様、努力している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		○	他の施設に移った方の所に面会に行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に入居者主体で考え、日々の生活が入居者の方のペースで暮らせる様に支えている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし方が強く、一人一人の生活歴に合わせた日常に、少しでも近づける様取り組んでいる。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人の生活記録を書いているので、それを通し把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族・本人の困っている事を聞き、計画に反映出来る様ケース会議を開き、本人がより良く暮らせる様、作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	推進委員会にも出席していただき、係りを持ちたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>状態変化時、協力医と相談しながら支援している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症の診断書を下したドクター(係り付け医)にコンタクトをとり対応する。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療現場の看護職と相談出来る職員が日常の健康管理を支援している。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>GHとして、入院見舞いや状況把握のため訪院し、医療機関との話し合いをしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>家族と係り付け医と相談を繰り返し行い全員で支援する。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		○	医療職との連携を作る方向で対策。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族の希望で移り住む事が多く、家族に現在の様子をお知らせしている。他の施設へ移り住む場合は、介護添書他説明等をして情報提供している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者さん一人一人の人格を尊重し本人が出来る能力を伸ばせる様働きかけ、自分の立場に置き換え言葉かけや対応をしている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者のペースに合わせて、本人の意思を第一に暮らせる様に心掛けている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者のペースに従って、入居者自身が出来そうな事は待つ姿勢を大切に、見守っていく。出来ないことなどはさり気無く支援を行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その日の朝に服装など選択していただき1日が気分良く過される様支援している。男女利用者とも基本的に出張美容院の利用希望があれば家族の付き添いで、なじみの理容・美容院へ出掛ける。化粧等も自由に行っている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>・季節行事(ぼた餅作り・だんご作りなど)は、積極的に行っている。 ・中庭での食事・外食・焼肉などの特別食も取り入れている。その際、準備片付け等、一緒に行っている。</p>	○	<p>嫌いな物を食べないからではなく、工夫をし、目先を変える工夫をしている。 お茶・箸など本人の希望に合った物を使用している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒は誕生日会等で飲む人もおりますが、基本的には本人の飲みたい物を出しています。タバコは家族の意向と医師からの指示で吸っている方がいない。	○	タバコ等は、医師からの指示で許可が出れば吸う方向で家族とも話し合いしたいと思っている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日頃の状態観察により、排泄に不安のある利用者については、トイレの前後の声掛けと、ほぼ定時の排泄チェックにより、パターン把握に努めている。	○	体調によりパット等も使用する事もあるが、状況により対応。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週4日、本人の希望で入浴していただき、入浴剤等、日々変えて楽しんで入浴している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活習慣を大切にし休息・眠りを自由にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者一人一人が今何をしたいかを見極めて、出来るだけ希望に添った支援をする。月に1回行事を設け楽しんで頂き、又、ドライブなどで気晴らしをして頂く。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者一人一人の希望にて、自己管理、又は事務所にて管理を行い、必要に応じて支払を行っている。買物ツアー等を行い、買物の楽しさを体験して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者皆さんで出掛ける事もあるが、その日によって、一人でも、どうしても外出したいとの希望があればいつでもスタッフ同行で出掛ける様にしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないうちに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節の変化を楽しんで実感して頂くように、お花見・食事会・りんご狩り・ドライブなど楽しんでいる。 利用者のご家族がそれぞれ個別に対応していることもあり。状況によって家族が係れない場合等、スタッフが一緒に行く事もある。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を置いてあり、利用者の希望で先方へ電話をつないだり、番号・メモなど渡して、いつでも掛けられるようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の訪問は多いが家族・知人の来所にも気軽に立ち寄れる様にし、入所者と気持ちよく過せる雰囲気作りに気配りしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する講習もスタッフ全員が受け、身体拘束を行わない介護上の工夫を管理者と相談しながら、行っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	センサーの利用。 スタッフ同士が利用者の状況の変化を常に把握し対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>・スタッフ同士常に情報を交換しあい合い把握。 ・利用者に気づかれない様、アイコンタクト・声掛けを行い状態や訴え、様子を把握し対応している。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>日中は、各利用者の状況に合わせますが、夜は保管している場所を施錠している。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>個々を把握する。 誤薬に関しては個々の投薬内容を把握し、徘徊者に対しては重視する。火災等に関しては、年1回の非難訓練や救急救命指導の受講に取り組んでいる。</p>		
<p>○急変や自己発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急対応マニュアルが整備され、職員全員が適切な対応が出来る様、救急救命講習の受講を受けている。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>緊急時連絡網を作成し、職員・スタッフは持っている。 非常口を標示し、年に1度の避難訓練を行っている。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時、緊急時の説明をしている。 命に係る事、危険予測される事以外は声を掛けるけど、その他に関しては見守り対応。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフ同士、常に情報を交換し、又、管理者に報告し、速やかに対応したり指示に従っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	家族との受診時投薬情報を得て投薬管・ノート等を活用し、スタッフ全員が確認し、利用者への間違いのない投薬支援をしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	腸の働きを良くする為に、乳酸菌やヨーグルト等を多く摂取し、又お腹のマッサージや、室内・室外問わず歩行運動して体を動かしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯磨き・うがいを欠かさず行い、週2回義歯の方はポリテントをしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立は栄養士さんをお願いしており、カロリー計算がなされている。水分はいつでもお茶等飲める様、ポットにお茶が入っており自由に飲める。夜間も水分補給をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	詳細な感染マニュアルが作成されており、手洗い励行、うがい水等の工夫、インフルエンザ予防・接種実施。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器・調理用具等、煮沸消毒を毎回して食材は賞味期限・消費期限を気を付けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	国道側の側面にはホームの名前と楽しい絵が大きく表示されている。玄関周りには草花が植えられ、ベンチも設置され家庭的で明るく親しみやすい雰囲気を作っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間には季節ごとの飾り付けなどを実施し、その他の共用空間はいつも安心して使用できる様、大きく変えたりせず、馴染みの場所としている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間や共用スペースは開放感があり、利用者はソファでTVを観たり会話を楽しまれ、裏口から続く広い芝生は自由に過せる居場所の工夫がされている。周囲に安全柵も設けている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前に本人が利用していた物・使い慣れた物など持って来られ、本人が使いやすい様に配置され過しています。出来ない方にはスタッフがお手伝いして過しやすい様工夫しています。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各利用者の体調に合わせた居室の温度調節をし、湿度管理には濡れタオル等を置き調節している。 臭いや澱みは感じられない。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ベットの柵を取り付け転落防止をしている。 廊下等、利用者が行き来する所には危険な物を置かない様工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室・トイレ・浴室・洗面所などがわかる様にプレートなどで知らせる。個人の物には名前を書いて混乱ない様にしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>裏庭があり、芝生となっていて、イス・テーブルを置き裏口から利用者が自由に入りでき利用できる。安全柵があり、前庭には、花・イチゴ・トマト等を植え、利用者が自由に収穫したり花を眺める事が出来る。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

◎事故のない生活(ヒヤリハットの減少)

◎スタッフの気配り

◎利用者の不穏・減少

◎家族への気配り

◎利用者の活動